

相談支援専門員として 歩み始める

邑楽館林圏域 OJT標準モデル

地域と出会い、本人と出会い、
地域とともに歩む。

目次

- | | | |
|----|----------|-------------------|
| 01 | 導入 | OJTの位置づけと学び方 |
| 02 | 地域と出会う | 相談支援は地域との出会いから始まる |
| 03 | 本人と出会う | 相談の入口となる関係づくり |
| 04 | 暮らしを知る | アセスメントを通して本人を理解する |
| 05 | 願いを見立てる | ニーズを考え、支援へつなげる |
| 06 | 地域で歩み始める | 実践へつなげる第一歩 |
| 07 | まとめ | 振り返りと次のOJTへ |

OJT①の位置づけ

座学で学んだことを、地域での実践へつなげる時間です。

- ここでは、知識をもう一度学び直すではありません。
- 地域に戻り、実践を通して、相談支援専門員としての視点を育てていきます。
- うまく書けなかったところこそ、本人を理解する入口になります。分からなかったことや迷ったことを、そのまま話してください。
- 主任相談支援専門員も、すべての答えを持っているわけではありません。本人の暮らしを中心に、一緒に考えます。

学ぶことから、本人の暮らしへ。

このOJTで大切にしたいこと

相談支援専門員としての視点を育てる。

- 相談支援専門員に必要な知識や制度は、研修や通知から学ぶことができます。
- **しかし、相談支援専門員としての視点は、地域の実践の中で育まれていきます。**
 - 地域と出会う
 - 本人と出会う
 - 暮らしを知る
 - 願いを見立てる
 - 地域で歩み始める

**受講者も、主任相談支援専門員も、
本人の暮らしに立ち返りながら、ともに育つ。**

OJT①の流れ

一本の流れとして、実践と振り返りを進めます。

① 地域と出会う

相談支援は一人ではできない。地域には仲間がいることを感じる。

② 本人と出会う

「また、この人に話したい。」安心して話せることが、支援の始まりです。

③ 暮らしを知る

本人が見えなくなったら、もう一度アセスメント。暮らしを知ることが支援の原点。

④ 願いを見立てる

デマンドではなくニーズ。「今の私」から「こうありたい私」へ。

⑤ 地域で歩み始める

相談支援は一人で完結しない。地域とともに歩み続ける専門職になる。
支援は、一人ではなく地域とともにつくるものです。

今日の進め方

2時間の中で、地域を感じ、課題を振り返ります。

前半：地域と出会う

導入

- 基幹相談支援センター等の見学
- 地域の相談支援体制を知る
- 今後の学びの入口を知る

後半：課題を振り返る

- インテークの視点
- アセスメント票の添削
- ニーズ整理票の添削
- OJT②へ向けた確認

評価ではなく、考え方を一緒に振り返る時間です。

地域と出会う

まず、地域の相談支援が動いているところを感じます。

- **相談支援は、一人ではできません。**
この地域には、本人や家族を支える多くの人と仕組みがあります。
 - ・ 基幹相談支援センター等
 - ・ 行政
 - ・ 相談支援事業所
 - ・ サービス事業所
 - ・ 医療・教育・就労・地域の関係者
- 地域を知るとは、制度を知ることではありません。
この地域で暮らす人の願いを知ることから始まります。

地域には、相談できる仲間がいます。
困ったとき、一人で抱え込まない。それが地域の相談支援です。

基幹相談支援センター等を知る

地域の相談支援を支える入口として、役割を確認します。

- 見学は、施設紹介ではありません。
この地域で相談支援がどのようにつながり、支え合っているのかを感じる時間です。

困ったときに相談できる窓口があること

- 主任相談支援専門員等によるスーパービジョンにつながること
- 地域の情報が集まり、支援体制を整える役割があること
行政や関係機関と連携しながら地域を支えること

つながる入口を知る

相談支援部会への傍聴は、地域で学び続ける入口です。

- **この圏域では、初任者研修の中で相談支援部会の傍聴を予定しています。**
- 地域の相談支援専門員がつながり、学び合う姿に触れることで、相談支援は一人で悩み続ける仕事ではないことを感じてください。
- そのつながりを知ることは、これから地域で相談支援専門員として歩む大きな勇気になります。

地域には、ともに考え、学び合える仲間がいます。

振り返り：地域と出会う

相談支援専門員は、振り返りの職種です。

考えるための問い

- 相談支援専門員として働く自分を、どのように思い描きましたか。
- 困ったときに相談できる相手や入口は見えましたか。
- この地域で、どのようなつながりを大切にしたいですか。

今日、地域を見て、何を感じましたか。

本人と出会う

相談の始まりは、制度ではなく、人との出会いです。

- 相談支援の第一歩は、本人や家族が安心して話せる関係をつくることです。
- 「何に困っているか」だけでなく、「どのような暮らしを望んでいるのか」に耳を傾けます。
- 答えは、私たちの中にはありません。
● 答えは、本人の暮らしの中にあります。

インタビュー

単なる情報収集ではなく、次につながる相談にする。

- 初めの出会いは、お互いに緊張するもの
- すべてを一度で聞こうとしない
- 話したくないことは無理に話さなくてよい
- 必要に応じて、問診票などのツールを活用する
- 次回へつながる相談になればよい

そこから支え合いの時間が始まります。

本人が「話せてよかった。」次も相談したい
と思っただけのことが、何より大切です。
相談支援専門員が
「勇気を出して来てくれてありがとう。」

振り返り：本人と出会う

「何を聞けたか」より、「また話したい」と思える関係を振り返ります。

- 本人や家族は、安心して話せていましたか。
- 相談支援専門員として、結論を急いでいませんでしたか。
- 本人の言葉を待つことができましたか。
- 次につながる相談になりましたか。

相談は、関係ができてから深まっていきます。

暮らしを知る

アセスメントは、本人を評価するものではありません。

- 本人を知る。家族の思いを知る。地域とのつながりを知る。暮らし全体を知る。
- 制度ではなく、暮らしから支援を考える。
それがアセスメントの始まりです。
 - ・ 生活歴・現在の暮らし
 - ・ 家族や地域との関わり
 - ・ できていること・強み
 - ・ 本人の願いにつながる背景
 - ・ 見立てにつながる情報整理

アセスメント票を振り返る

様式を埋めることなく、本人を見えるようにする。

確認したい視点

- 情報が本人の暮らしにつながっているか
- 困りごとだけでなく強みが見えているか
- 家族・環境・地域との関係が見えているか
- 支援者の判断だけになっていないか

添削で大切にすること

一緒に振り返りたいこと

- なぜ、そのように捉えたのか
- 本人のどの言葉から考えたのか
- まだ確認できていないことは何か
- 別の見方はできないか

ストレングスの視点

「できないこと」だけでは、本人の暮らしは見えません。

本人には、すでに持っている力、これまで積み重ねてきた経験、支えとなる人や環境があります。

- 本人ができていること
- これまで乗り越えてきた経験
- 好きなこと・大切にしていること
- 支えとなる人や場所
- 環境の中にある力

支援は、不足を埋めるだけではありません。
その人の力を見つけることから始まります。

本人が見えなくなったら

もう一度、アセスメントに戻る。

- 相談支援専門員は、答えを決める人ではありません。
本人の暮らしに立ち返り、何度でも振り返りながら考えます。
- 本人の言葉に戻る
- 暮らしの場面に戻る
- 支援者の見立てを振り返る
- 必要に応じて再アセスメントする

**本人が見えなくなったら、
もう一度アセスメント。答えではなく、本人へ。**

願いを見立てる

デマンドではなく、ニーズを見る。「本人の願いを、ともに考えます。」

デマンド

- 今、してほしいこと
- 表面に出ている要望
- すぐにサービス名になりやすい

ニーズ

- 暮らしの中で満たされる必要があること
- 願いの背景にある必要性
- 本人らしい生活につながるもの

相談支援専門員は、その人らしい歩みを一緒に考えます。

ミスポジションを整理する

「今の私」から「こうありたい私」へ。

- 見立てとは、本人を枠にはめることではありません。
本人の現在地と願いの間に、どのような歩み方があるのかを一緒に考えることです。

今の私



こうありたい私

歩む道は、本にの意思により、歩幅も、その人らしさです。

- ・ まっすぐな階段かもしれない。
- ・ らせん階段かもしれない。
- ・ 途中で踊り場が必要かもしれない。

ニーズ整理票を振り返る

本人の願いを、支援の方向性へつなげる。

- 主訴を深掘りできているか
- 生物・心理・社会モデルの視点で整理できているか
- デマンドとニーズを分けて考えられているか
- 本人の強みや環境を踏まえているか
- 「こうありたい私」へ向かう道筋が見えているか

課題の確認は、正解を探す時間ではありません。

本人をどのように理解したのかを、一緒に振り返る時間です。

課題を一緒に振り返る

書けたかどうかではなく、本人をどのように捉えたのかを対話します。

一緒に確認するもの

- アセスメント票
- ニーズ整理票
- 本人の言葉
- 本人の暮らし
- 受講者が考えたこと

対話すること

- なぜ、そのように考えたのか
- 本人の願いはどこに見えたか
- 暮らしはどのように見えたか
- ほかの見方は考えられるか
- 次に何を確認したいか

地域で歩み始める

OJT①は、ここで終わりではありません。

- 今日の見学や課題添削で見えてきたことを、次の実践につなげます。
 - 社会資源調査へつなげる
 - 計画作成様式一式へつなげる
 - サービス等利用計画へつなげる
 - スーパービジョンへつなげる
 - OJT②でさらに振り返る
- 子どもも大人も、地域の中でその人らしく暮らし続けられること。
相談支援専門員は、その未来を地域とともに作ります。

地域とともに歩み続けることが、
相談支援専門員としての学びになります。

振り返り：OJT①を終えて

相談支援専門員として、どのような一歩を踏み出しますか。

- 地域と出会って、何を感じましたか。
- 本人と出会うとき、大切にしたいことは何ですか。
- アセスメントで、もう一度見直したいことは何ですか。
- ニーズ整理で、どのような見立てを深めたいですか。
- 次のOJTまでに、どのような実践をしてみたいですか。

このOJTで伝えたいこと

相談支援専門員としての視点を、地域で育てていく。

- 答えは、私たちの中にあるではありません。
答えは、本人の暮らしの中にあります。
- だから私たちは、何度でも本人に立ち返り、何度でもアセスメントを行います。
見識だけではなく、本人の思いをつむぎ、ともに歩み続ける。

**地域とともに歩み続けることが、
相談支援専門員としての学びになります。**

歩み始める人へ

地域とともに、これからの実践へ。

勇気をもって来てくれてありがとう。
話せてよかった。また来てもいい。

本人が見えなくなったら、
答えではなく、本人へ。

答えは、本人の暮らしの中にある。
支援とは、つなぐこと。

地域と出会い、本人と出会い、地域
とともに歩む。
その一歩が、ここから始まります。